

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム きらら	評価実施年月日	平成20年 2月 12日
評価実施構成員氏名	山田 吉田 横堀 小林		
記録者氏名	山田 和子	記録年月日	平成20年 2月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>介護面では、吸引ノズルや感染症(ノロウイルス)対策キットを職員の目に付く所に設置し、職員がすぐに対応できるようにしている。職員の研修面ではケア研究会の会員になり開催される研修会に参加している。</p>	<p>救急法の講習 外部の研修への参加</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>施設の行事と一緒に参加を促していく。また、広く地域の方の参加を促すために、救急法などの講習会を開催していく予定を立てている。</p>	<p>定期的な実施 3回～4回/年</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>包括のケアマネージャーに相談にのって頂いたり、包括主催の研修会には参加している。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者は学んでいるが、今後は職員にも浸透していくように取り組んでいく。</p>	<p>研修への参加</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>精神的・身体的な虐待を防止するために、入居者の訴えに良く耳を傾け、入浴時は皮膚の状態なども観察し早期発見に心掛けている。</p>	<p>研修への参加</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族の不安を聞き解決できるようにしている。また、疑問点があれば、解決してから入居できるようにしている。</p>	<p>重症化した時の施設の対応と家族の協力を明確にしておく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が面会に来た時は「何か要望はないか、利用者は不満に思っていることはないか」確認している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族は月1回、利用料の支払いのために必ず来設するので、その時に利用者の状況を報告している。また、状態の変化が生じた時は、その都度、電話での連絡をしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内に第三者機関を表示している。管理者・職員はいつでも苦情を聞くことができるように、家族に声かけをしている。上げられた苦情に対しては、真摯に受け止め予防できるようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度、報告や意見交換を行っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態に応じて、職員の調整を行っている。(時間調整・人数調整)		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動が生じた場合は、早めに新しい職員を入れ、利用者が職員に慣れる時間が取れるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>計画を立ててはいないが、薬・病状など勉強は行っている。</p>	<p>勤務中に外部の研修に出られるようなシフトを組む。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の包括や他のグループホームと連携し、いつでも相談できるようにしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>様子や周りの意見に耳を傾け、何か気になることがあれば、すぐに話し合いを持つようにしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>昇級・ボーナスの支給などに反映している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>一対一でゆっくり話しが出来るようにしている。また、聞いた話を職員が共有し、混乱しないように対応の仕方を統一する。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>まず最初に家族の不安や要望を聞き、施設を信頼して頂いてから入居できるように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人にとって何が一番良いかを考えるように家族に促し、そのために必要なサービスがあれば紹介している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族が入居させたがっている例が殆どなので、「本人は不安である」ことを家族に説明し、それを理解して頂き、本人の気持ちを配慮しながら対応していくことができるよう願っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	居室で一緒に片づけものをしたり、ソファで一緒に昼寝をしたりしている。利用者も職員が大変な時は手伝ってくれたり、「疲れたんじゃないかい・早く帰りなさい」などと声を掛けてくれたりしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の不安や悩みを聞き、施設で出来ること・家族がしなければいけないことを整理し、家族が問題を抱え込むことがないようにしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族とのふれ合いが大切なことを説明し、家族が施設任せにならないように注意する。また、入居者が普段家族に望んでいることや、職員に話している家族への感謝の言葉を伝えている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	隣人や親戚が来設した時は丁重にもてなし、また、来たいと思えるようにする共に、来てくれてうれしいことを伝える。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	人間関係のうまくいかない利用者に対しては、間に職員が入るようにしている。また、他の入居者の言葉で傷付いた人がいる場合は、個人的に話し合い誤解が解けて、考え込まないように心掛けている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院などで退去した場合も家族との連絡を取り、悩みの相談や今後の対応の仕方などの相談にのっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を尊重することを第一にし、なるべく居室に閉じこもることがないように意識している。また、日々楽しみを持つことが出来るように、利用者に出かけたい場所を聞いたり、外食で食べたい物を聞いたりしている。		買い物や外出をいつでもしたい利用者の思いを叶えたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人から情報を得ている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	強制せず時間を自由に使えるようにしている。食事・入浴・入眠・起床の時間は自由で良いことを説明している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人は日常生活の会話から、家族は来設した時に要望を聞いて計画に反映出来るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	評価を最低1回/月行うと共に、症状や訴えによって見直しをして付け足したり、一時的な場合は連絡ノートを利用したりしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	本人の様子を描写した文章や、言葉を書くように職員に働き掛けているが、まだ、不十分である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の家族に自由に宿泊して頂いたり、食事を提供したりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	職員の家族がボランティアとして、夏祭りに参加している。入居者の顔写真と氏名を警察に届けている。(SOSネットの活用)		幼稚園や地域の人へのボランティアの依頼
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他事業所や包括のケアマネージャー・当法人の居宅と連携をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	施設内で解決出来ない問題が生じた時は、相談を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	他のグループホームの看護師に相談をしている。医師には状況に応じて往診をお願いしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	診断や治療を受けられるようにしているが、気軽に相談できる医師はなく、何か相談しても「それは、家族の考えですか」と介護現場の意見を聞こうとしてくれない。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師を兼ねており、日頃の健康管理を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院側から入院の期間について相談を受けたり、病院のソーシャルワーカーと情報交換を行ったりしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医師と話し合うことは難しいが、家族とは話し合っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師との協力体制は出来ているが、実際には行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居中の要約など本人の情報を作成している。また、電話や訪問なども行っている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いについては、注意するよう職員の教育をし、失礼のないようにしている。対応も一人ひとりのプライバシーを大切にしている。(入浴・トイレ介助時はドアを閉める・買い物はツアーではなく1人ずつ行っている)</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの思いが集団の中で表現できないことがあるので、居室や入浴時一人になった時に職員が話を聞くようにしている。聞いた話は職員全員に伝え、思いを共有できるようにしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴やレクなどは希望を聞いて行っている。買い物も本人の希望に合わせているが、回数的に多いと十分に支援できないことがある。</p>		<p>外出の回数を増やす</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>店には行っていないが、毛染め・パーマ・カットは本人が自由に選べるようにしている。現在、来ている美容師さんと満足している。(2カ所から呼んでおり、どちらを選ぶかは自由にしている。)</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一人ひとりの好みを大切に考え対応している。食事の準備はあまり頻繁に行っていないが片付けは、1部の人々が定期的に行っている。強制にならないように注意している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒はアルコール依存症の利用者がいるので、提供できていない。喫煙を希望する利用者はいるが、病気の関係から家族に禁止されているので行っていない。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	尿意を大切にしている。尿意が無い場合は時間誘導するが、強制にならないようにタイミングを見ている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一応入浴日は、4回/週に定めているが本人の希望や体調、汚染の状態によって適宜対応しており、利用者にもそのように話している。時間帯も、普段は午後だが午前に入れることもしている。しかし、利用者の遠慮があり自由に入浴を楽しんでいる状態ではないと思われる。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自分の家ではないので、常に不安はあると思うが、施設の時間に合わせるのではなく、本人の自由を尊重している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	買い物好きな利用者があり、「買い物に行きたい」と話す時は早め対応したり、外出や外食などに積極的に誘っている。役割は負担にならないように、本人の「やりたい」ことを行っている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる人は、自由に所持している。買い物で使う時も代金を預かり金から出すか、自分の所持金から出すかは、利用者の自由になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>夏は可能だが、冬期は安全上難しいことがあり、あまり積極的には行っていない。その日の希望をその日に叶えることはあるが、頻度的には少ない。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>入居者から聞いて、家族に協力を得ている。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>電話は自由に使用し、郵便も依頼により投函している。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>自由に訪問できるようにしており、来てくれた人には、また来て頂けるようお茶を出したり、一緒にゲームをしたりしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>拘束をしないでケアを行っている。しかし、部屋の立地上ベットの片側は壁に付いている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>暴力を振るい意志の疎通ができず、転倒の危険性が強い入居者が居た時は玄関の鍵を掛けていたが、現在は行っていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間の勤務者は一人なので十分とは言えないが、常に所在の確認・声掛けによる注意の促しを行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	なくすのではなく、なるべく自然な形だと思っているが、意志の疎通ができず、何でもパンツの中にしまったり、物を持って他の入居者を叩く利用者が居る時は安全のためやむを得ず片づけていた。(消火器の受け皿・トイレのスリッパ・洗面所の洗面器) 現在は利用者の歩行に支障が生じないように、実際に職員が歩いてみて置く場所を考えている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	注意を促す声かけや整理整頓などをして、安全に努めている。また、訪室し居室が安全な状態にあるかをいつも把握できるよう心掛けている。また、情報(夜勤・日勤)の共有をし、危険な場合は早めに対応し転倒が予防出来るようにしている。(椅子やゴミ箱の位置・絨毯など)		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	吸引ノズルや感染症対策キットを設置し、使用の仕方を定期的を確認している		救急法の講習
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消火設備の点検を定期的に行っている。		避難訓練
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	説明はその都度行い、家族が慌てることのないようにしている。また、どのように生活することが良いかを家族と相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタルサインをチェックし、温度板に記録し変化を把握している。日々のチェック表を活用しすべての職員が把握出来るようにしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>連絡ノートに記録し職員がいつでも見ることが出来るようにしている。</p>	<p>薬や病気の勉強会(薬剤師に依頼)</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>バランスの取れた食事や食物繊維の多い献立の作成している。運動の奨励をし午前にはラジオ体操・午後にも簡単な体操を行っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>殆ど自立しているが、介助の必要な入居者については、物品の準備や洗面所への誘導を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>居室で飲む人の水の準備や水分量・食事量の把握を行っている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策マニュアルや感染症対策キットを設置している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	賞味期限を守り、古い物は廃棄している。1回/2日配達をしてもらっているので施設で長く保存することはない。魚・肉は生を使い、冷凍を殆ど使用することはない。食洗器の利用や布巾の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	階段とスロープの両方を設備し、玄関は広く作っている。建物の前には植木・後ろには畑を作っている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	正月・節句・クリスマスなどは季節感が感じられるような飾り付けをおこなったり、夏は隣の支援ハウスで育てた花を飾ったりしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	気の合った人と一緒に座れるように配慮している。(大体座る場所が決まっているのでその場所にいつも座ることができるようにしている)		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	部屋には、自分の使い慣れた物を持ってくるように家族に働きかけている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	24時間強制換気をおこなっている。室温は常時24度くらいを保っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者 2 利用者の2 / 3くらい 3 利用者の1 / 3くらい 4 ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 2 家族の2 / 3くらい 3 家族の1 / 3くらい 4 ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2 / 3くらいが 3 職員の1 / 3くらいが 4 ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2 / 3くらいが 3 利用者の1 / 3くらいが 4 ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2 / 3くらいが 3 家族等の1 / 3くらいが 4 ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 自然に暮らすということを心掛けています。いろいろなトラブル(利用者同士)はありますが、職員はそれに動じることなく自然の精神活動と考え、あまり口を出し過ぎず見守りながら、うまくサポートできるようにしています。施設の中はのんびりしており、人を選ぶことなく誰が来てもすんなり受け入れられる様な雰囲気があると思います。最後に食事はとてもおいしく、入居者の髪が増えたり、黒くなったりしています。